

立川競輪事業の将来像検討委員会

第2回議事録(要約)

日 時：平成23年8月9日(火) 14:30～16:30

場 所：立川競輪場 会議室

出席者：岡部委員長、小町副委員長、白土委員、溝口委員、新海委員、田中(準)委員、
田中(良)委員、小林委員、山崎委員、山本委員

議 題：今後の競輪場の運営について

議事内容：

委員長 それでは第2回立川競輪事業の将来像検討委員会を開催いたします。

事務局 配布資料確認

委員長 前回の委員会でのご意見、その後委員の方からのご意見について、事務局
から説明をお願いします。

事務局 前回の委員会でご意見の方からのご意見、その後のご意見を取りまとめた資
料が、資料1～6になります。別紙の資料については、全国競輪施行者協議会
からの提供によるものです(以下1～6まで配布資料説明)。

委員長 ただいま説明のあった資料2、資料3については報告書本文に、それ以外
については、本文の巻末に載せるという提案がありました。資料について、
ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

委員 A 経済効果について一人500円として試算していただいたのですが、もう少し
高いのではないのでしょうか。東京都下の多摩地域のベッドタウンとしての
他市と違い、商業都市立川という特殊性を加味し、もう少し高い金額でシミュ
レーションを行った方が良いのではないのでしょうか。

また、アンケートについて、年齢層が高いということが現実に顕われてい
て立川市も65歳以上が人口の20%を超えています。東京はこれから高齢化
が益々加速し、世界一のスピードで進むだろうといわれています。平成35
年頃から立川市の人口は減少するというシミュレーション結果が出ていて、
かつ高齢化率21%という超高齢社会になります。日本経済が沈んでいるのは、
人口構成を分析し、それに対応してこなかったことが原因だとの指摘もあり
ます。こういうことを考えると個人の経済状況にも影響があり、消費に使える
金額も当然変わってきます。社会の変化に対応できなかった部分は沈下し
ますが、一方で社会のニーズに対応した新しいビジネスチャンスが次々に生
まれてきて、それにギアチェンジしない事業が沈下していきます。

競輪界に敷衍しますと、もうギアチェンジしないと先が見えてくるという
ことになります。例えば民営化するかどうかなども検討することも必要だと思
います。

また、アンケートの関係では、ギャンブルが好きか嫌いか。競輪が好きか嫌いか、年齢層などによる属性別のリサーチ分析が今後の戦略を練る上で必要と思います。

委員 B 経済効果についてですが、他の競輪場で 1000 円/人を計上している所があります。車券の購入単価が立川より若干高い点、試算から時間が経過している点を考慮して、今回は 500 円/人に設定しました。ご指摘のあった立川市の状況等を考慮し、もう一度検討致します。

また、アンケートの件ですが、広範囲な属性を網羅したアンケートは立川で行った事は無いと思います。そういったものは J K A、全国競輪施行者協議会の方で実施していませんか。

委員 C 平成 19 年度実施の資料がありますので、ご提供します。

委員 D 競輪場に来場するお客様はいいのですが、競輪場に来ない方に対するアンケートは中々実施できませんでしたが、(財)自転車普及協会で行ったアンケート調査の中で、サンプル数は少ないですが、街中の一般の方に調査を行っています。その中で、若者が競輪に対して興味が無いわけではないという結果が出ております。

配布資料のアンケートで感じたのですが競輪場のイメージが悪いという人は少なく、関心が無い人が増えております。競輪に関心が無いということは競輪界全体の問題ですが、昔は競輪に対する悪いイメージが多く、それが一度リセットされたのであれば、今後、競輪界のイメージの構築にとってよい環境になってきたのではないのでしょうか。

委員長 競輪はスポーツとしては面白い、しかしそれが車券購入に結びつきません。それは車券の買い方が難しい等、立川競輪だけの問題ではないと思います。

現在の高齢化社会では、孤独な高齢者が一人で競輪場に来ることもあります。また、タウン紙等でお子様を招待するという企画を立て実施もしています。応募状況はどうか。

委員 B 何回か行っています。1 回 20 組ほどの招待になりますが、最近ではキャンセル待ちが出る状況です。

委員 A 何回行っているのですか。

委員 B リビング多摩と提携して行っており、昨年度は 7 回実施しました。

委員長 実施するタイミングはどのような時ですか。

委員 B 時期を見て実施していますが、夏休み、土曜、日曜が中心になります。

委員 E 参考意見として経済効果の話になりますが、立川競輪は市外からこられる方も多いと思います。そういう点からしても立川市にとっての経済効果が高いことをもう少し強調しても良いのではないのでしょうか。B 委員から 1000 円/人の話が出ましたが、競輪場に行くにあたり、新聞、交通費、食事として 500 円程度を費やすというような積み上げ方もあります。また、データ化は

難しいと思いますが、場外のレストラン、売店に対する経済効果という点からしても、売り上げに貢献していると思います。

また、マーケティングの話は難しい問題提起だと思います。競輪をやったことのない人にアンケートを実施しても当然、関心が無い一言で終わってしまいます。先ほど言われたリビング多摩のように、プロモーション的な方法やウェブ上でアンケートを実施し、若い方のサンプルを増やすなどの工夫が必要だと思います。アンケートに答えればポイントをあげてそのポイントを使うことで競輪を楽しんでもらい、その時のレポートをウェブに載せるなどの方法も考えられます。

委員 B 先ほどのリビング多摩の件ですが、平成 22 年度で 7 回実施し、合計 77 組 148 名を招待しています。この中には子供も入っています。

委員 F グランプリ開催時のアンケートは 60 歳以上が半数となっています。これを見たときは非常に多いと思ったのですが、分析した側としては少ないと感じているようです。一番多いのは 60 歳以上の男性、一人で来る方が多く、家族連れや複数ではあまり来ないようですが、その一方イベントや、食堂の名物とか付加価値的な物を期待している人が多いようです。そういうことを考えると、家族や女性といった残りの半数の客層を対象に施設改修やイベント等での対応によって来場して頂く余地はあるのではないのでしょうか。

イベントに期待する人は多いのですがイベントとは具体的にどんなものが多いのですか。

委員 B 一般的に言えば競輪の解説者、選手、芸能人が出演するもの等が多いです。他には自転車を走らせないスピード競争や子供向けの遊具等が多いですね。

委員 F 広い場所を利用して人を呼ぶのはいいですね。皆さんも期待しているところかなと思います。駐車場は何台くらいありますか。

委員 B 概ね 2 か所で 1300 台位になります。駐車料金は無料です。駐車台数としては少ないほうではないと思います。昔は溢れる事もありました。

委員 F イベントがあって駐車場が無料で止められるのは良いと思います。他のところではイベントがあって駐車場から車が溢れ周辺に迷惑をかける事が往々にしてありますが、その心配は必要ないかと思います。家族連れではやはり自家用車が多くなると思います。

委員 B 公式的には公共交通機関を使用して下さいと周知していますが。

委員長 立川競輪場として女性に対しては今までどのような配慮をしてきましたか。

委員 B 少し中途半端になっていたかもしれません。

委員 G やはり女性は今でも競輪場に対して、高齢の男性が多く、治安が悪いというイメージを持っていると思います。

委員 D 治安という面からは非常に良くなっています。

委員 B 中央競馬に関しては 25~30 年前であれば今の競輪界と同じようなイメー

ジがありました。しかし、将来を見据えた戦略の展開が出来た結果、今では競輪界のようなイメージはありません。他の公営競技ではこのような展開をしてこなかった結果だと思えます。

委員 G 競輪の好きな有名人に発信してもらうのはどうでしょう。観光地などでは人気ブロガーをピックアップし、情報を発信してもらうという事が行われています。若い世代に人気のある方や、女性の方を発掘し、その方の持っているコアなファン層に情報を発信していただくといった手段があると思えます。競輪好きな有名人に車券を購入することをアピールしてもらうことが効果的ではないでしょうか。

委員 B 現在競輪がCMで使っているタレントはご存知ですか。

委員 G ポスターに出演している長澤まさみさん、オダギリジョーさん、大森南朋さんは拝見しましたが、競輪が好きな方なのでしょうか。

委員 C 熱烈なファンとは聞いていません。

委員 B 本当に好きなタレントがいればいいと思えます。

委員 H 資料のアンケートでは、初めて来場する人が4.2%となっています。お客様としてこういう人たちを取り込んでいかないと売り上げは伸びていかないと思えます。

新聞によると、震災の影響によるギャンブルの売り上げが軒並み落ちており、中でも競輪は20%程の落ち込みになっているそうです。このような状況のなかで、初めて来場するお客様に対してのPRは実施していけるものでしょうか。

委員 C 以前から若年層の取り込みは続けて来ており、先ほどのタレントによるイメージキャラでのPRを図っています。しかしながら、商品そのものを変えることが出来ないこともあり、特に、施設については昭和の匂いを引きずっている状況です。

アンケート結果を見ても、4%のお客様は、競輪グランプリは面白そうだということで来て頂いたお客様と推測できますが、残念ながらリピーター化はしていません。若い方に競輪場に来てレースを見て楽しむという選択肢を選んでもらうことは厳しいと思えます。先ほど話題に出た団塊の世代は、時間的にも経済的にもゆとりのある世代と言えます。これから何かを始めようかという人たちも多く、競輪界にとっては大切な世代であり、併せて、若年層を取り込むことも重要なことだと考えています。

委員 D やはり競輪の魅力を感じていただくのは、実際に競輪場に来てトップクラスの選手の走りを見てもらうことが重要なポイントだと思います。その時の課題として、今の競輪場のギャンブル場的な雰囲気というものが、新しいお客様にとって、抵抗感があり、理解しにくい点なのかもしれません。

現在、競輪場内には窓数の縮小等により、閉鎖している施設が沢山ありま

す。そういう施設を活用して新規のお客様のニーズに合った空間を創出し、楽しんでもらえるよう遊休施設の効果的な活用方法を検討していく必要があると考えています。お客様のニーズの多様化にあわせた施設やサービスの提供は今後の課題となると思います。

委員 B 競輪の売上げが下がっている点についてですが、競輪の場合、場外の売上げが全体の7割弱を占めています。震災の関係で、東北、茨城関連の競輪場が使えない状態にあります。売上げが下がっているのはこのようなことが影響しているかと思います。

委員 D 売上げに関しては、震災前からの傾向として偶数月の一日平均が昨年を上回っている状況があります。偶数月は年金の支給月という特徴がありますが、それにしても、これまでにはなかったことです。これが、下げ止まりという方向に向かうのかについては、今後の状況も踏まえて検証したいと思います。

委員長 そのレースは記念競輪ですか。

委員 D 実は格の低いレースが持ち直しの気配を見せてきています。個人的な印象ですが、トップクラスの選手のレースでは実力拮抗で車券が当りにくく、下級クラスのレースでは、実力のある選手が1人いれば車券が、当てやすいという魅力があるのかなと思います。

委員 F 競輪は皆でわいわいやりながら楽しむのではないのですか。

委員 D そういう楽しみ方もあるとは思いますが、そういう傾向はあまりないかもしれません。

委員長 仲間できて、場内では離れて一人なられているかたもいらっしゃいます。

委員 D 最初は誰かに連れてこられたという方が多いですね。しかし連れてきた方が競輪場で一緒にきた人たちを一人にするから、次回からはあまり行きたがらなくなるという傾向はあるかもしれません。

委員長 委員 I さんは何か意見はありますか。

委員 I 売上げを向上させる一つの計画案といたしまして、五階の研修室を利用して、高松町、曙町の自治会長さんに集まっていただき、競輪開催を実際に見ていただいて、競輪というものを知ってもらう事また、競輪場を知らない人も多いので、イベントを行うことにより、知らない人にも見て頂くことが必要だと思います。そうすれば、口コミで競輪の面白さも広がり、競輪に興味を持った人が、友達を誘い競輪場に来ると、折角だから車券を買ってみようかということになると思います。また、女子競輪選手の参加により幅広いファン層が形成されるのではないかと期待しております。

周辺住宅地に対しては以前に比べて迷惑度が下がってきています。お客様が高齢化しているということも要因かもしれません。

委員長 周辺地域の方でもご夫婦で来場されるのでしょうか。

年頃から飲酒が可能になってきました。それも色々な縛りがあります。例えば、警察協議を行った上で、車での来場ではないという証明がないと売らないとかというようなことです。

委員長 缶や瓶は、走路に投げ込まれると危険なので禁止されています。

委員 D お酒を飲んで楽しんでいただくという点については良いと思いますが、秩序維持という部分では難しい面もあると思います。従って、飲酒は施設内で限られた場所で飲んでいただくのがいいと思います。

委員 G 賃金についてですが、これまで地元対策として周辺の立川市在住の従事員を雇用しているため、有る程度賃金が高いのも仕方ない面もあるかと思っておりましたが、意外と市外在住者の割合が多いですね。その点はどのようなのでしょうか。

委員 B 当初は地元の方の採用が多かったのですが、そこから引越しなどで移転した人がいるのではないかと思います。また、今は少なくなりましたが、昔は京王閣と二場で働いている人がいたので、京王閣が地元という人も考えられると思います。

それから昔は東京都市収益事業組合がありましたので、その関係の方もいたのではないかと思います。

委員 G 近年採用者というのはいないのですか。

委員 B 10年以上は採用していません。従事員には登録者と応援者がいます。平成21年度までに応援者を全員登録者にはしましたが、新規採用は行っていません。

委員 G 定年はあるのですか？

委員 B 65歳です。

委員 A 従事者にしても、事業そのものにしても、お客様の方向に対しての変化に対応してきていない、ギアチェンジしていないという事が売り上げ減少の根本的な原因だと思います。トータルとして、時代に対応してきていません。しかし、逆に言えば、これまで対応してきていないので、今後、しかるべき対応を実施していけば少しは向上するという逆の見方も出来ると思います。今はまだやるべき事をやりきれていないので、やる事をやればまだまだ可能性があると思います。

委員長 レースの仕組みについてですが、現在9車で競技しています。このあたりの議論はどうでしょうか。

委員 C 今現在選手数が三千数百人位なのですが、近い将来おそらく1000人くらい減るだろうと言われていています。今まで不採算といわれたグレードの低い開催が減少し、システムを活かして良いレースを効率的に場外発売しやすくなり、経営効率という面では向上すると思います。

女子だけでなく男子も全部7車ということではないのですが、前半のレース

で7車にするという検討もしています。これは前半で多くの人が配当を取り、後半は負けていた人が取り返せるという仕組みを整えることで、お金が回って少しでも長く滞在してくれることにつながるのではと考えています。

委員長 それでは次の議題ですが、前回の委員会の中で事務局に説明させた今後の競輪事業の運営について資料15頁の箇所、これについて議論をお願いできればと思います。

 試算については一番厳しい試算を事務局の方から出しておりますが、事務局から何か説明はありますか。

事務局 今の段階では無いのですが、全国競輪施行者協議会から参考までに資料をいただきました。全場と立川では違うので、収支の見込みはどうかという事はありますが、この見込みではまだ甘いなどの意見があればお願いします。

委員長 全国競輪施行者協議会からお出しいただいている資料について御説明をお願いします。

委員D この資料は、一番最近のデータまで盛り込んでいるものではなくて、3月頃のデータに基づいて作成しているものです。小委員会の中で示された経済産業省による試算はこれより良い試算になっていて、全国競輪施行者協議会の方がむしろ悪い試算になっています。

 一番下のラインに記載している試算Aというものですが、平成22年の実績がイレギュラーになってしまいました。震災の影響で不確定な面もありますので、前々からの下げ率で推移した場合の想定になっております。

 真ん中の試算Bという箇所ですが、これは諸々の試算に使っている数値ですが、ある程度平成24年度からの新規事業として、ミッドナイト競輪の本格化に伴う事業の拡大、女子競輪というものが、パブリシティ効果を発揮してくれているという事等を加味して、ある程度は下げ止まりになるという想定をしたものです。

 試算Cというのは、当時、震災前の状況の数字を使っていますので、震災後の経済状況は大きく変わっていると思いますが、今現在使用する数字ではないと思っています。

 そういう意味で試算Bから試算A、この間の数字での動きなのかなと予測を立てています。

委員長 減少率の計算で前年比でのマイナスの考え方はどのようなものですか。

委員B 平成20~21年の売上比を基に、過去何年かの平均で出していたと思いますが、確認していません。大体8.6%位で概ね同率で減少していく形になっています。10%まではいかない数字です。

委員長 いずれにしましても、下がることは間違いありませんね。

委員D その通りだと思います。何か画期的な明るい要素というのが無い限りは難しいと思います。しかしながら、現在、ギャンブルのマーケットが縮小して

いるのは中央競馬を見ても分かる事なのですが、これがゼロになるかと言え
ば、逆に考えにくいと思っています。何処で終息するかという事は、判りか
ねますが、ゼロまで落ちてゆくという事ではないと思います。

委員 B 立川の試算は過去の立川市の数字の落ち方を基に、それがそのまま継続す
るというのが基本的な考えです。

委員長 立川の特異性にグランプリを加味しないのですか。

委員 B グランプリについては不確定要素のため、この中の数字には加味していま
せん。今後の5年間では、平成25年、平成28年と2回の開催が期待されま
すが、開催した場合は当然、売上、収益は上がります。

委員 A グランプリを加味した場合と加味しない場合が考えられますが、シミュレ
ーションは加味しない場合になっているのですか。

委員 B その通りです。

委員 A 立川市のシミュレーションにおいてグランプリを加味した場合も試算でき
るのではないですか。

委員 B あくまでもグランプリは不確定要素です。開催も確定しているわけではあ
りません。従って、最悪の場合を基に改善策を出すという考え方です。

委員長 グランプリを加味して経費を削減したらどうなるかというようなシミュレ
ーションについてはどのように考えていますか。

委員 B 単純なことですが、グランプリの要素を加味すればその単年度だけが、利
益が上昇する形になります。

グランプリを加味した考え方であれば、資料15頁で加味するのではなく、
資料23頁で経費削減の対策を実施した上で表11とは別のものとしてグラン
プリを2回開催した時は更に収益が上がりますといった別表12を新たに入れ
る事は出来ます。ただ、それはあくまでも不確定要素になります。

委員 G 表11については経費削減対策を実施した数値であるので、グランプリにつ
いては組み入れてはどうでしょうか。

委員 B あとは読み取りやすさの問題だと思います。

委員 D 不確定要素ではないのですが、先ほどC委員からもお話のあった通り、5
年間で選手1000名の削減の話がありましたが、競輪選手1人当たりの処遇を
変えないとしても、5年後には賞金の減少は相当額になります。つかみの数
字ですが、5年後は、競輪場1場当たり少なくとも年間1億以上の削減にな
り、先ほどのプラス要因として組み入れることは可能だと思います。

委員長 小委員会の中で議論された内容はどこまでが確定した事でしょうか。

委員 D 交付金の交付率が少なくとも2.1%まで下がることが確定要素で、2.1%か
らどこまで下げられるかは不確定要素だと考えております。

委員長 社会的経済的な変化の中で購買単価の変化についてはどうでしょうか。

委員 B それは資料4頁をご覧ください。

- 委員長 購買単価の減少は競輪独特の傾向でしょうか。それとも他の公営競技も同じ傾向と言えるのでしょうか。
- 委員 C 他の公営競技も同じ傾向です。
- 委員長 その要因というのは、可処分所得の減少が考えられるのでしょうか。
- 委員 D 可処分所得の減少と同時に、娯楽費の細分化が進み、この状況になっています。
- 委員長 それでは今日いただいた御意見について事務局の方でまとめ、改めてお手元にお届けいたします。その間、何か気付かれた事がありましたら、事務局の方にご連絡ください。
- 事務局 また、次回については若手のワーキンググループからの報告があります。今月 13 日(土)に立川市若手職員 18 名から売上浮揚策について、イベント・ファンサービス、競輪場施設、競輪のレース・選手、その他という事で意見をいただきます。それをこちらの委員会に報告する予定です。
- 委員長 その報告を皆様にご覧いただいて、次回は資料 16 頁以降について議論を進めたいと考えています。
- 事務局 施設に関する意見につきましては、施設改修検討委員会の方で参考にしていただきたいと考えております。
- 委員長 また、本日配布した資料は最終的な報告書に添付いたします。その他ご質問はありますか。
- 委員 G 従事員の 65 歳の定年はどこで決まったのですか。
- 委員 B 元々定年は無かったようですが、いつから 65 歳が定年になったかは不明です。
- 委員 G 65 歳定年の根拠は何なのでしょう。
- 委員 B 労使協定です。
- 委員 D 昔は高齢の従事員を支えるための従事員が必要だという状況もありました。しかしながら、売り上げの減少に伴い、定年の年齢を決めなくてはいけないという事になりました。一部 60 歳再雇用ということもありました。
- 委員 G いかんせん賃金が高いですね。時間数に対しての支給水準を考えると、とても市民の理解は得られないと思います。
- 市職員も昔は定年がなかった。現在は定年再雇用で給与半減の上、基本給のマイナス改訂もあります。立川競輪場の従事員だけが特別という事は無いと思います。時代状況を反映して見直すべきと考えます。
- 委員 D 現在でも数十年前に出た日々雇用の一般職という身分を基準にしていると思いますが、そうは言っても、年休も社会保険保障制度も適用されている状況です。労働者の立場で考えれば逆に安定した雇用に担保してほしいということなのでしょう。
- 委員 B その点については難しい問題です。

事務局 先日の議事録ですが、本日、立川市のホームページの方に掲載させていただきましたのでご報告いたします。

委員長 それでは、本日はお暑い中お集まりいただきありがとうございました。

以 上